

お食事

中一 女子

日ごろとても忙しい母です。
テレビ番組に夢中で釘付けになつて動こうともしない私に

「さっさと食べてしまいなさい。片付けへんでしょう」と金切り声で叱ります。

母に代わって流し台に立つていた祖母も、しぶしぶ食卓についたわたしに「それでも、よ一囁んで、ゆっくりよばれるのやで」とたしなめるように声をかけてくれます。

そのとき私は、ふと、あることに気づき、考え込んでしまいました。

食事をすることに、いろいろな言い方があるのだな。そしてそれは言い方の違ひだけではなく、食事にたいする心掛けの違いなのかも知れない。

「食べる・食らう」。

父が飼い犬に食べさせているとき、「はよくえや」「もつとキレイにくらわんかい」となどついてるのを聞いたことがあります。

「食べる・くらう」はなんか動物の食べようの表現のようですが、時折、私のクラスの男の子は給食のとき「はよ食つて野球にいこうでー」などと言つてゐるのを聞きます。犬か猫がムシャムシャガツガツふうにたべているように感じます。

「食べる」。もともとは「賜る」の古い言い方でへりくたつたことはのようですが、しかし今の私の感覚では、やはり、口を動かし歯でかんでたべる体の動きを表現しているようで、生物動作のように思えます。母は、「早く食べなさい」と叫びます。

おはあちゃんは、注意して聞くと言います。

人から呼ばれ招かれて「駆走」になつたとき言うことば。人から恵まれたものとうやうやしく押しのいたいで、いただきます

なんだか丁寧すぎるようにも思いますが、でも、祖母はものの不自由な時代、与えられ恵まれたものに感謝して、まつましく謙虚に生きて来たのだとでしょう。

ついでに「ご駆走さま」を調べてみま

した。
私のために「駆走」。走り回り、「まわって懸命に尽くしてください」とあなたのご苦労に「ご駆走さま」。一杯感謝をこめて言つてはいるのです。

わたしの学校では給食のとき

いたたきます
もそつきまでした

この間、担任の先生が言われたことを書き添えます。

「食事」の「事」は、「神事」「仏事」の「事」もみな同じ。「こと」

は「うやうやしい集会」。
しかし村では、季節の節目節目に「二」をして敬虔に村人の結束を誓い合いました。決して軽々しいパーティなどではありません。

人権『ごころの詩』
おかし

5年 男子

大好きなおかしが
たつたひとつしか
あなたは どうしま
か。

お父さん、このおかしいも?」
お父さん
ぼくは
お父さん
お父さん

お父さんや
お父さんや
お父さんや
お父さんや
お父さんや
お父さんや

と聞きます。

お父さんや
お父さんや
お父さんや
お父さんや
お父さんや
お父さんや

法爾(ホウニ)自然(ジネン)。

アルガママそのままをいただきながら牛のあゆみのよう、一日一日力いっぱい過ごさせていただこうと思ひます。

ご迷惑をかけることでしょうが
お許しくださいませ。

でも、だれかが
ほしむー」と叫つたら
どんなに小さなおかしでも
人數分に分けて食べます。

これが「家族の絆」ですね)

西池 哲俊

丑年丙辰

一月一日生まれのわたしは
ちょうど丑年(の誕生日で満八十四歳)になりました。

「丑」という漢字は、指先に力を入れて踏ん張っている象形なのだそうですね。(「紐」は、指先に力をいれて糸をよつてヒモに仕上げるのです)

